

対話と出会いで、一歩が変わる。

TIP*S POST

vol.08

<http://tips.smrj.go.jp/>



TIP*S とは何か

TIP*Sは、中小機構が運営する新しい学びの場です。年間約200回のワークショップやイベントを通じて参加者同士が対話することで、それぞれが新たな気づきや想いを胸に、自ら決断し、アクションを起こし始めています。

イベントに集まるのは、何か行動したいと感じている多彩な方々。中小企業と大企業、地域と都会など、垣根を越えた人と人との出会いを生みだし、それぞれの想いや活動を支え合う関係づくりを目指しています。

TIP*S での学び

TIP*Sのワークショップや講座は、バリエーション豊か。ひとりひとりの「一歩進みたい」を、丁寧に応援したいという思いで、さまざまな企画を考えています。そして、イベント当日は、対話が自然と盛り上がる雰囲気づくり、さらに学びを深めたい方同士のつながりづくり力を入れています。まずは気軽に、関心のあるイベントに参加してみてください。多様なバックグラウンドを持つ参加者同士で話すほど、刺激を受けあつてモヤモヤします。そのモヤモヤが、自ら考え、行動するためのステップ。いつのまにか「一歩進んで」いるはず。

Access



〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-5-1 丸の内二丁目ビル 6F 611 区
JR 東京メトロ丸の内線 …「東京駅」丸の内南口より徒歩3分
東京メトロ千代田線 …「二重橋前駅」4番出口より徒歩3分

TEL: 03-6212-1840 [受付時間: 11:00~18:00(平日)]
FAX: 03-6212-1841 E-MAIL: info-tips@smrj.go.jp



TIP*Sの「学び」を旬のコンテンツからご紹介



人と人、人と社会とがつながる場を18年前からつくり続けてこられた山納洋さんと「つながる場づくり」について考える今回のイベントは、キャンセル待ちの人気ぶり。アンバサダーのヤブさんのサポートをいただきながら、山納さんのトークからスタートです!

集う人たちの可能性を拡げることが場の目的と話す山納さん。ご自身がプロデュースされた、日毎に店長が変わるシェア・カフェ「common cafe」「六甲山カフェ」や、全国の「つながる場」を紹介される中、特に場づくりのヒントが詰まっていたのが、2000年から1,000回近く開催されてきた「Talkin' About」という場。ともに場を運営する仲間を見つけること、集客にとらわれすぎないこと、参加するハードルを下げることなど実体験から導かれる秘訣が満載でした。

そして、あるエピソードを交え「つながる場づくり」を続ける想いを語る山納さん。

「カフェでのつながりを元に成功したヘミングウェイは、晩年『カフェでだらだらする暇があるなら書け』なんて言っていますが、カフェに出入りしていなければ彼はおそらく何者にもなれなかった。普段と違う環境で多くの人と関わった末のアウトプットと一人で取り組んだ結果では、前者の方が創造的なのでは…という仮説を証明したい。場で、人生が変わるくらいの出会いや気づきが得られたら最高だし、世の中が1mmでも変わったらと思っています」

トーク後は「つながる場づくり」について話したい内容を参加者自ら提案し、そのテーマごとにグループをつくり対話しました。(山納さんのフィードバックは神コメントコーナーをご覧ください!)。最後に、自分がつくりたくなった場をみなさんに付箋に書き出してもらいました。そこには『大人も子供もずっといたくなる場』『焚火と井戸端会議ができる場』など1人1人の思いあふれる場が。イベント終了後も、偶然いあわせた人と人がゆるやかにつながる「場」が生まれ、交流が続いていました。

山納さんの

神コメント

グループで対話したテーマと

【参加者】— つながる場は展開できる? マスターの振る舞い、場のルールを再現できれば可能性がある。

【参加者】— リピートしたくなる場は? 来訪者の「出会いや経験に対する期待感」を上回った場

【参加者】— イノベーションを産む場の条件は? 弱い情報(自己PRの逆)があると、そこに自然と情報が集まる。

【参加者】— 1人で場をつくるには? 始めるハードルを下げる。人の発言を受けとめられれば自分が場になれる。

【参加者】— 場を継続させるには 誰かがやりたいと思っている場をつくること。

Voice

参加して下さったみなさまから



えびすやさん

社員が想いを話せる場を社内につくりたいと思い、参加しました。今日の気づきは、場を続けるハードルは意外に低いということ。人が集まらない日があってもいいし、日替わり店長のカフェのように荷物を分け合えば続けられる気がしました。TIP*Sは2回目ですが、意見が飛び交いながらも程よい距離感が心地よいです。



ホンマさん

TIP*Sのイベントでは、みなさんとの対話や考えを書き出す作業で頭の中が整理されます。今日は「つながる」という言葉に惹かれ、今後場をつくるなら何から始めたらいいのか考えたくて来ました。一人で場を始めるのは難しいけど、何かしたい人同士がお互いのフォローになれば実現できるのではと感じました。

「場」のウラガワ

だえみ

ひろし

ヤブさん

だえみ— 山納さんとは、約2年前にパラレルキャリアというテーマでお話いただいて以来ご無沙汰でしたが、今年の6月TIP*Sに突然いらして。これは「つながる場」を続けてこられた山納さんにお話いただくタイミングじゃない? と、勢いでお願いしました(笑)。

ひろし— ほんま、ふらっと寄ってみるもんですね(笑)。

ヤブさん— 山納さんほどこのテーマにふさわしい人はいませんから!

だえみ— ヤブさんは山納さんのファンなの(笑)。なので今回は3人で場をつくることにしたんです。

ヤブさん— 多くの人が口にするけど「場づくり」って言葉の意味は広いよね。

だえみ— 場は簡単にできるけど、なぜ場がほしいのか、その場で誰をハッピーにしたかを考えないと続けるのは難しい。山納さんの本を読めば、続ける秘訣がわかるんだけどね(笑)。

ひろし— ありがとう(笑)。場が続くためには、面白い一年生が入り続ける必要がある。

だからこそ今のメンバーと向き合って、どんな面白いことしようって考えるのが大事なかな。

だえみ— TIP*Sは丸の内という場所柄、年度ごとの変化が大きくて。

ひろし— 場にいるメンバーは変わっていくのに、その場を守るってどういうこと? という問いは常にあるよね。TIP*Sは…成長すると卒業しちゃうもんね、だえみママ(笑)。

だえみ— (笑)。成長はうれしいんです! でも、受講側から運営のサポート側にシフトしたり、関わり方を変えて戻ってくれる方もいて。

ヤブさん— 僕みたいなおせっかいな奴が(笑)。

だえみ— そうそう(笑)。ママに弱さがあるからこそみなさんが助けてくれる(笑)。こうして、たくさん力を借りて続ける場って、私たちにとっては活動やビジネスのはじまりを生む欠かせない存在ですよ。

ヤブさん— 場で出会うことで生まれることは多いし、自分の殻を破られて面白い。一歩踏み出して転んだら、TIP*Sに戻ってくれば大丈夫!

PROFILE

山納 洋さん

大阪ガス入社後、扇町ミュージアムスクエア、メビック扇町、大阪21世紀協会のプロデューサー等を経て、現在はハーバードケネディスクールへ留学中。個人として、トークサロン企画「Talkin' About」、日毎に店長が変わるシェア・カフェ「common cafe」などをプロデュース。著書に「つながるカフェ・コミュニティの(場)をつくる方法」「地域プロデュース、はじめの一步」等。

藪原 和雄さん

大手メーカー勤務。大学卒業後、営業企画畑で生損保・人材会社を渡り歩き現職。早稲田大学MBA取得。本業の傍らさまざまな分野で活動。カレーとあんこ系和菓子をこよなく愛するランナー。

TIP*S Words TIP*Sで生まれた「学びの言葉」

Talk and Dialogue [ing+]
第9回「0.002 脳 ~不確実な時代を生きるための脳の動かし方~」

不確かな未来に勝手にワクワク

by 青砥 瑞人さん DANCING Einstein Co., Ltd. Founder & CEO

【第11回】ワークショップ
「愛され必要とされる企業になる瞬間」

心で仕事をする

by 宮田 博文さん 株式会社宮田運輸 代表取締役社長



ほんまぶ 突撃レポート

「地域のサードプレイス」の今

Chika-ba (東京都国立市)

その場が自分の居場所になる

今回訪れたのは西川義信さんが運営する「Chika-ba (ちかば)」。キッチン併設の「暮らしに近いものづくり工房」には食やクラフトなど「ものづくり」を軸に働きたい人が集い、工房でのつながりから新たな展開が広がっています。

場にお邪魔して気付いたのは、利用者にChika-baを「自分ごと」と感じてもらうための工夫です。ベーシックな設備以外の道具は、必要に応じて自分で用意してもらう。利用者を工房長と呼び「工房にいる間は各自が責任者」と意識してもらう。利用者に月一回の定例会に参加してもらうといった小さなルールを設けることで、各自が役割や立ち位置を見つけやすくなり、その場を自分の居場所だと感じてもらえるのです。TIP*Sも、みなさんが居場所だと思えるような場所にしていきたいと改めて感じました。

